



|    |  |  |
|----|--|--|
| 53 | <p>保育園には、子どもたちが家庭から持ってきたものが残っている。文化の多様性が分かるようになってきている。</p>                 | <p>保育園には、子どもたちの家庭や地域の文化を反映したものが残っている。</p>                                      |
| 54 | <p>保育園は子どもたちが楽しい時間を、一緒に過ごせるような集団的活動も行うようにしている。</p>                         | <p>保育園は活動を計画する上で、子どもたちが楽しめるような集団的活動をを行うようにしている。</p>                            |
| 55 | <p>保育園は子ども同士の気持ちのほろよいを大切にしたい。若くは年齢が広がっていきように展開している。</p>                    | <p>活動の中でけんかやトラブルが生じるとお互いの気持ちも悪くなり、それぞれを尊重し合うようになる活動が行われている。</p>                |
| 56 | <p>活動の中で、友だちの気持ちや考えを自分の気持ちと共有し、感情を表現し合えるように指導している。</p>                     | <p>子どもたちがお互い助け合える関係を築けるように活動が行われている。</p>                                       |
| 57 | <p>上記の項目以外に「保育園が新しく気をつけておくこと」について意見を述べた。あつたはつが強いと思ふ事はありますか？自由にお書きください。</p> | <p>「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。</p> |

基本的に、家庭から持ってきたものが残っている。文化の多様性が分かるようになってきている。

保育園は子どもたちが楽しい時間を、一緒に過ごせるような集団的活動も行うようにしている。

保育園は子ども同士の気持ちのほろよいを大切にしたい。若くは年齢が広がっていきように展開している。

活動の中で、友だちの気持ちや考えを自分の気持ちと共有し、感情を表現し合えるように指導している。

活動の中で、友だちの気持ちや考えを自分の気持ちと共有し、感情を表現し合えるように指導している。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

「おもて」季節感の感じられる「季節」の要素が盛り込まれている。季節感や、季節の行事が盛り込まれている。

|            |   |                                      |
|------------|---|--------------------------------------|
| < 日誌について > | <p>子どもの経験と必要に応じて「予定」を記入し、子どもたちが楽しめるようにしている。</p>       | <p>「年齢」「予定」「季節」「予定」の要素が盛り込まれている。</p> |
| 58         | <p>その日の予定は、文字で書かれたり、絵などで表示され、子どもにも見通しができるようにしている。</p> | <p>「年齢」「予定」「季節」「予定」の要素が盛り込まれている。</p> |
| 59         | <p>その日の予定は、文字で書かれたり、絵などで表示され、子どもにも見通しができるようにしている。</p> | <p>「年齢」「予定」「季節」「予定」の要素が盛り込まれている。</p> |

「年齢」「予定」「季節」「予定」の要素が盛り込まれている。

「年齢」「予定」「季節」「予定」の要素が盛り込まれている。

「年齢」「予定」「季節」「予定」の要素が盛り込まれている。

「年齢」「予定」「季節」「予定」の要素が盛り込まれている。

|    |                                       |                               |                 |
|----|---------------------------------------|-------------------------------|-----------------|
| 60 | その日の予定は、個々の子どもが必要に応じて柔軟に対応できるようにしている。 | 日案は、個々の子どもが必要に応じて柔軟なものとなっている。 | 「予定」→「計画」の計画立てる |
| 61 | 子どもたちが無駄に待たなければならぬような時間を作らないようにしている。  | 子どもたちを必要以上に待たせないように配慮している。    | 無駄とは「必要以上」に     |

|    |   |  |  |
|----|---|--|--|
| 62 | 上記の項目以外に「日課」について見る視点として、あったほうが良いと思う事柄はありますか？自由にお書きください。 | クラス内（複数担当）のバランスがとれ、健康に過ごす上で配慮し、保護者の流れに合わせる必要があること、また、子どもにとっての日課が整理されているかどうかは、要 | 日課は季節活動と休息のバランスがとれ、健康に過ごす上で配慮し、保護者の流れに合わせる必要があること、また、子どもにとっての日課が整理されているかどうかは、要 |
|----|---|--|--|

|              |   |   |
|--------------|---|---|
| ＜保育者の役割について＞ |   | 保育者の役割  |
| 63           | 保育者は、常に子どもの興味・関心に敏感に対応できるようにしている。                     | 保育者は、子どもの状態や興味・関心に臨機応変に対応できるようにしている。                  |
| 64           | 複数の保育者で保育をする場合には、十分に打ち合わせをし、チームとして柔軟で、有効に動ける体制を取っている。 | 複数の保育者で保育する場合には、十分に打ち合わせをし、チームとして柔軟で、効果的に動ける体制を取っている。 |

|    |   |   |
|----|---|---|
| 65 | 上記の項目以外に「保育者の役割」について見る視点として、あったほうが良いと思う事柄はありますか？自由にお書きください。 | 保育者は、日々の保育の計画・実行も、子ども同士の間で、よく話し合い、翌日の保育につなげるよう努めている。保育士は、子どもの成長に合わせて、様々な発表の場を設け、子どもが主体的に活動できるように工夫している。 |
|----|---|---|

|           |           |
|-----------|-----------|
| 「予定」→「計画」 | 計画立てるのが前提 |
| 無駄とは      | 「必要以上」に   |

|  |  |
|--|--|
| クラス内（複数担当）のバランスがとれ、健康に過ごす上で配慮し、保護者の流れに合わせる必要があること、また、子どもにとっての日課が整理されているかどうかは、要 | 日課は季節活動と休息のバランスがとれ、健康に過ごす上で配慮し、保護者の流れに合わせる必要があること、また、子どもにとっての日課が整理されているかどうかは、要 |
|--|--|

|            |   |
|------------|---|
| 回答者からのコメント | 「有効に動ける体制」？   |
| 実際は時間取りにくい | 保育士は、日々の保育の計画・実行も、子ども同士の間で、よく話し合い、翌日の保育につなげるよう努めている。保育士は、子どもの成長に合わせて、様々な発表の場を設け、子どもが主体的に活動できるように工夫している。 |

|       |   |
|-------|---|
| 親への対応 | 育児に関する情報は、園で共有し、保護者に伝える。また、保護者の不安や疑問に対しては、丁寧に説明し、サポートを行う。 |
|-------|---|

| 〈集団編成〉 |   | 集団編成  |   |
|--------|---|---|---|
| 66     | グループ分けをする際には、子ども間、または子どもとそのグループ担当の保育者との間に人間関係が成り立っていることを考慮する。 | 子ども同士や、子どもと保育者との人間関係を考慮して、集団の編成を行っている。      | 成字詞は「保育者と子ども同士の関係が成り立っていること」を指している。また「子ども同士の間には、自然なつながりがある」とも述べている。 |
| 67     | 編成のグループ編成の場合は、それぞれの年齢に応じた活動が展開できるように工夫する。                     | 編成の集団を編成する場合は、それぞれの年齢に応じた活動が展開できるように工夫している。 | 「工夫する」という言葉は、年齢や発達段階に合わせた活動の展開を指している。                               |
| 68     | 他のグループに入って活動することができるようにしている。                                  | 活動に応じて、柔軟な集団編成を行っている。                       | 「柔軟な」という言葉は、状況に応じて編成を変えられることを指している。                                 |
| 69     | 兄弟が優先的に同じ園に入園できるルールがある。                                       | 園全体の子どもと、保育者が決定する行事・活動がある。                  | 「優先的に」という言葉は、兄弟の絆を大切にするという考えを示している。                                 |
| 70     | 上記の項目以外に「集団編成」を見る視点として、あったほうが良いと思うものはありますか？自由にお願いします。         |   |   |

回答者からのコメント

「成り立つ」という言葉は、子ども同士の間には、自然なつながりがある」とも述べている。また「子ども同士の間には、自然なつながりがある」とも述べている。

「工夫する」という言葉は、年齢や発達段階に合わせた活動の展開を指している。

「柔軟な」という言葉は、状況に応じて編成を変えられることを指している。

「優先的に」という言葉は、兄弟の絆を大切にするという考えを示している。

ルールなし ルールなし

| 家庭との連絡                                 |
|--|
| 法廷時に、子どもの家族の人と懇話的に電話を交わすようにしている。       |
| 連絡簿が、子どもの様子を知らたり、伝わりすることに役立っている。       |
| ひとりひとりの子どもの家族と定期的に話し合う機会が設けられている。      |
| 「園だより」などで、園での子どもたちの様子、園の保育方針などを伝えていく。  |
| 「園だより」などで、子育てのポイントなど子育てのための情報を伝えていく。   |
| 家族の参加                                  |
| 子どもたちが家族の人と一緒に楽しむ行事・活動が設けられている。        |
| 園で、子どもたちの家族の人の子育てを支援したり、相談したりできる機会がある。 |

家庭との連絡

法廷時に、子どもの家族の人と懇話的に電話を交わすようにしている。

連絡簿が、子どもの様子を知らたり、伝わりすることに役立っている。

ひとりひとりの子どもの家族と定期的に話し合う機会が設けられている。

「園だより」などで、園での子どもたちの様子、園の保育方針などを伝えていく。

「園だより」などで、子育てのポイントなど子育てのための情報を伝えていく。

家族の参加

子どもたちが家族の人と一緒に楽しむ行事・活動が設けられている。

園で、子どもたちの家族の人の子育てを支援したり、相談したりできる機会がある。

## 【日本版SICS】

# 子どもたちのエピソードから始める自己評価法

## 実施の手引き

2008

この評価法は、Sics (Wellbeing and Involvement in Care: A process-oriented Self-evaluation Instrument for Care Settings, Kind & Gezin and Research Centre for Experiential Education Leuven University, 2005)を日本の状況に合わせて改編したものです。

#### Original Authors:

Ferre Laevers (Ed.)

in collaboration with: Mieke Daems, Griet De Bruyckere, Bart Declercq, Julia Moons, Kristien Silkens, Gerlinde Snoeck, Monique Van Kessel

本マニュアルの作成にあたっては、「平成20年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業)課題番号(H19-政策-一般-016)保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究;研究代表:秋田喜代美」による援助を受けました。

## 1. はじめに

日々の保育をふり返り、評価し、新たな計画と実践に活かしていく方法には、さまざまな方法があります。毎日の保育を記録し、記録しながら反省をし、翌日の保育計画を立てていくという個人的な方法、特定のクラスの保育を園の保育者全員で参観し、園内研修で議論し、各々の保育の質の向上を図ろうとするもの、そして、第三者に評価を受けるものなどです。

ここで紹介する「エピソードから始める自己評価法」は、保育の記録をもとに、園の同僚との保育の質を高めるための話し合いをとおして、具体的な改善目標を設定し、明日からのよりよい保育をめざそうとするものです。三つの段階からなっており、

- ① エピソードを記録し、子どもたちの「安心度」と「夢中度」を評価する段階
- ② なぜ、その評価になったのかを分析する段階
- ③ 改善の視点を明らかにし、改善策を決定する段階

で、構成されています。

特徴は、子どもの具体的な姿から出発することです。「エピソード」と名付けていますが、特別な出来事ではなく、日常の、ある時点での活動を記録することから始めます。そして、その姿を「安心度」と「夢中度」の二つの観点から評価します。「安心度」とは、子どもがどれだけ、「心地よく」すごしているかを見る視点です。「夢中度」とは、子どもがどれだけ「活動に没頭」しているかの視点です。

そして、なぜ安心度や夢中度が高いのか、低いのかを同僚と話し合います。悪い点を探し出して直そうとする姿勢ではなく、「良いところ」をより多く見つけ出して、良いところを増やしていく中で、保育の質を向上させようとする姿勢で取り組むことが必要です。したがって、担任、主任、園長など、園の組織としての立場が異なっても、よりよい保育を協働してめざそうとする「同僚性」を基本に話し合いが進むことが望まれます。

この話し合いをふまえて、今の保育のすばらしいところを明確にするとともに、さらにすばらしくするためにどのようなことができるかを目標として設定します。できるだけ具体的な目標を設定し、期限を決めて取り組みを行い、期限が来たら同僚と達成度を評価し合います。達成度に応じて、新たな目標が出てくるかもしれません。

繰り返しますが、この自己評価法は、今の保育を評価し、点数化しようとするものではありません。今の保育の良いところと、さらによりよくするための視点を獲得することが重要なことです。

園全体で保育を良くしていこうとする姿勢が成功の鍵となるでしょう。

## 2 第1段階

### (1) エピソードの記録

まず、対象とするクラスを決定しましょう。そして、エピソードの記録を取る人を決めます。担任はもちろんですが、その他の同僚の方が1名でも入ると良いと思われます。

記録を取る時間は、登園後の時間、その日の中心となる保育活動のとき、午睡後の活動内容を細かく決めていない時間帯など、1日の内でどの時間でもかまいません。担任以外の方に入ってもらふ必要がありますから、担当の調整を行って、担任以外の保育者が入りやすいようにしましょう。

次に対象となる子どもですが、特定の子どもを指定するのではなく、名簿順で3のつくりとか、〇月生まれの子のように、偶然に決まるようにしましょう。人数としては5-6名程度でかまいません。後に述べるように、実際に使用するエピソードは3つですが、多様な活動場面から多様な子どもの様子を選択できるように、少し多めにエピソードを集めるのです。

担任以外の保育者に入ってもらふ関係で、1日の内で長時間は無理でしょうから、たとえば、今日は登園中で先に来た子どもたちが遊んでいる時間、明日はメインの活動時間など、2-3日にわたって記録を取れば良いでしょう。

Form Aを見て下さい。1枚の用紙に2名の記録が書けるようになっています。同じ時間帯に2名の記録は取りたいものです。そうすると、担任が一人で担任外の保育者が一人なら1度の時間帯で $2 \times 2 = 4$ 名の記録が取れます。担任が2名で、担任外が1名なら $3 \times 2 = 6$ 名ですので、それほどの負担ではないと思われます。それぞれの時間帯に記録を取る子を決めておいて、一度取った子は次回は取らないように対象児の割り振りをしておく必要があります。

「エピソード」と呼んでいますが、決して特別な行動を記録する必要はありません。特定の時間帯の対象児の行動を記録すると考えれば良いでしょう。また、たとえばその時間帯のすべての活動を記録する必要もありません。その時間帯のその子の活動の様子の特徴が表現できる部分だけで良いでしょう。

### (2) 「安心度」と「夢中度」

この自己評価法の特徴の一つはエピソードから、子どもの状態を「安心度」と「夢中度」の二つの観点から評価することです。「安心度」は家庭外の場所で、家族外の人たちと生活している状態を、子ども自身がどのように感じているのかを観察によって理解しようとするものです。入園してからの日数、母子分離の状況、信頼できる保育士の存在、友だち関係、またその日の朝の家庭での状況等で変化し、さまざまな要因で、1日の中でも変化が起きます。

「夢中度」は、子どもがどのくらい活動に没頭しているのかをみようとするものです。活動に没頭しているとき、活動に心を奪われ、全能力が活動へ向けられ、最大限の力を発揮しようとして、集中度は最高に達し、時計的時間も超越してしまいます。夢中度が高いと言うことは、満足度も高く、達成感も大きなものがあります。



## 安心度

- ▶ 安心度の高い子どもたちは、心地よい状態にあり、日々の生活を精一杯楽しんでいます。
- ▶ 彼らは一緒に周りのものにかかわりながら楽しんでいます。
- ▶ 彼らは生き生きと、またリラックスした落ち着いた状態です。
- ▶ 彼らは心が開かれた感性の高い状態で、周りの環境を受け入れてかかわっています。
- ▶ 彼らはのびのびと自主性を持って、らしさを失わずにいます。
- ▶ 安心度は、自分自身に対する自信、自分を大切にできる気持ち、そしてくじけない強い心とつながっています。
- ▶ これらは全て自分自身、自分の感情や経験に素直に純粋に向き合うことから成り立っています。

### ■ 安心度はなぜ重要なのでしょうか

安心度は、人がいい精神状態にいるか、また、人として心地よさを感じながら存在しているかどうかを示す指標なのです。子どもたちの安心度が低いということは、人として必要な基本的な欲求が満たされていないということです。

### 基本的欲求

1. 生理的欲求(食べる・飲む・動く・眠る・など)
2. 愛情・思いやり・優しさに対する欲求(抱きしめられる、スキンシップや傍らに居ること、愛情や思いやりを受けたり、与えたり)
3. 安全で、明らかで、継続性に対する欲求(ある程度予測できる環境にあること、どこにいるのか環境がわかること、その環境下で何が許され、何が許されないのかが明らかなこと、そして、他者を安心して頼って構わないこと)
4. 認められて肯定されることに対する欲求(他者から受け入れられ、認められる気持ち、他者にとって意味ある存在であること、集団の一員であるという所属意識があること)
5. 自主・自律に対する欲求(自分自身で何かできるという気持ち、何かを習得した自信、自己の限界へ挑戦する経験、成功経験・達成感)
6. 自己の存在意義と道徳的価値観への欲求(“良い子”であるという気持ちと他者や周りの環境とつながっているという感覚)

もちろん、不快に感じる状態が全て問題視されるわけではありません。欲求が満たされないことはよくあることです。しかし、安心度の低い状態が長期間にわたって続くことは、しばしば子どもたちの心の育ちに問題を引き起こします。例えば、自分自身や自分自身の感情を見失ってしまったり、極端に無関心、不安、攻撃的な態度を示したり、発達の遅れをきたしてしまうなどです。

つまり、安心度とは“生活の質”のことなのです。それはまた、子どもと子どもを取り巻く環境との最適な関係のことなのです。

子どもたちの安心度を向上させるということは、子どもたちを甘やかしたり、子どもたちの欲しいものを全て分け与えたりすることではありません。子どもたちは、彼ら自身の生活が真に満足する状態になるように積極的に役割を果たします。また、大人は、子どもたちの自信を育て、感じたことを表現できるように援助し、子どもたち同士でかかわり合わせ、成功する経験を味わわせ、子どもたちの才能や行動する力を伸ばすことを援助することができるのです。

## ① 夢中度

### 夢中度

- ▶ 夢中度の高い子どもたちは、集中力も高く、また、活動に没入しています。彼らは、活動に興味を示し、やる気を喚起され、魅了されています。したがって、最後までやり遂げようとします。
- ▶ 子どもたちが何かを真似たり、何かのふりをしたりすることは、強く心が働いている活動です。彼らは、五感を最大限に働かせ、ある世界をたっぷりと経験しているのです。
- ▶ 探求心に満ちあふれることで、子どもたちはしっかりと満足感を得ることができます。
- ▶ 活動に夢中になっている子どもたちは、自分たちの最大限の能力を発揮して活動を行っています。
- ▶ このような質を携えているということから、夢中になるということは深い学びをもたらす状態であると言えます。

## ■ 夢中度はなぜ重要なのでしょうか

夢中になるということは特別なことです。子どもたちが何かに夢中になっている姿には驚かされるだけでなく、直感的に遊びの邪魔をしないでおこうと感じるはずです。

子どもたちが何かに夢中になっている時、活動に自分の能力を傾け、彼らは“成長”しているのです。より深いレベルでの学びが生じ、彼らの能力もより高まって行くのです。

夢中度が低ければ、その理由があるはずで、発達が停滞している可能性もあります。したがって、子どもたちが多様な活動に取り組める環境を構成するために、私たちはできる限りのことをすべきなのです。

夢中になっている子どもは、ブロックで遊んでいたり、粘土で何かを作っていたり、パズルを作っていたり、お話を聞いていたり、他の子どもたちとかかわっていたり等々の活動に“没頭している”状態です。

夢中であるということは、活動している内容に心を奪われているということであり、心から興味を持ってそれに取り組んでいるということです。人に頼まれたり、強いられてすることからは、高い夢中度を得られることはありません。活動への動機は心の内面から出て来なければなりません。

夢中であるということは、心が完全に開放された状態で活動していると言えます。そこで得られる印象は強いもので、身体的感覚や動き、色、音、匂い、味などは、他の状態では

感じるこのできない幅と深さを持っています。想像力や精神活動が一気に活動し始めます。夢中度が低い場合、その感覚は生き生きとしたものではなく、表面的な感覚だけに留まってしまいます。

夢中になるということは素晴らしい状態です。まさに自分自身が別世界へ飛び込む感覚です。体中にエネルギーが走り回る感覚を味わいます。子どもたちは、自らその状態へ入り込んでいきます。遊びは、まさにこの満足感を味わうことのできる最高のものなのです。夢中度に欠けていれば、退屈で虚無感やフラストレーションを感じてしまうでしょう。

夢中度の源は、発見や探究したいという衝動にあり、自分自身の周りの世界を経験し、感覚を駆使し、現実を“つかみとりたい”という衝動にあります。もともと、この“しっかりとつかむ”という言葉は文字通り解釈されるべきで、自分自身の手の届く範囲内のもの全てに触れ、しっかりとつかみとるという意味でした。それが、徐々に、“つかみとる”ことが“理解する”ことを意味するようになり、その具体性が失われたのです。

何かに夢中になると言う状態は、その活動が挑戦を誘うもので、簡単すぎず、難しすぎないものである時において可能になります。夢中度の高い子どもたちは、自分自身の最大限の能力を発揮して活動を行っています。大人も子どもも、発達の遅い子、早い子にかかわらず、持てる力を出して、精一杯で取り組んでいるとき、夢中度が高いと言うのです。

### (3) 「安心度」と「夢中度」を評価する

エピソードを書いたら、そのエピソードの際の子どもの「安心度」と「夢中度」を評価します。Form Aの評価を記入する欄に1から5までの評定を記入します。評定に当たっては、各評定の具体的な様子を示した下記の表が参考になるでしょう。評定に「+」のサインを使って「3+」などのように表すことも可能です。この場合は3と4の間を意味します。

書き取ったエピソードが展開されている間に、夢中度が変化することがあるかもしれません。子どもは、パズルに夢中になっていたかと思うと、突然止めてしまって友だちの遊びをじっと眺めているだけになって、その後別の遊びを始めるというような行動を取る場合があります。パズルに夢中になっていたときの夢中度は「5」かもしれません。その後、友だちの遊びを眺めているときは「1」かもしれません。新しく始めた遊びの時は「3」かもしれません。このような場合、平均して「3」にするのではなく、取り上げたエピソードの時間中の子どもの心の動きから夢中度を読み取ることが重要です。パズルをやっていたときは夢中にやっていて、確かに「5」かもしれません。しかし、それがわずかに2分程度の出来事で、それが終わってしまうと、継続的に別のパズルに取り組むことなく、友だちの遊びを眺めています。このときは何もしていませんから「1」かもしれませんが、本当に何の目的もなく漠然と眺めているのか、それとも新しい遊びを探していたのかかもしれません。そして、新しく始めた遊びは、遊び道具がそろっていないか、遊びに集中できなかったのかかもしれません。つまり、その子のエピソードの間中に流れていたその子の心の動きを推測しながら夢中度を判定することが重要です。

## 「安心度」の評定

| 評定 |      | 様子  |
|----|------|---|
| 1  | 特に低い | <p>子どもが明らかに不快感を示している：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぐずる、泣く、叫ぶ、キーキー声を出す；</li> <li>・元気がなく、悲しそうにしていたり、おびえている。パニック状態になっている；</li> <li>・怒ったり、暴れたりしている；</li> <li>・足をバタバタさせたり、床に寝転がったり、物を投げたり、他人をたたいたりしている；</li> <li>・指吸いをしたり、目をこすったりしている；</li> <li>・環境へ働きかけなかったり、人との接触を避けたり、引きこもったりしている；</li> <li>・頭を自分でたたいたり、床に倒れたりなどの自傷行為が見られる。</li> </ul>           |
| 2  | 低い   | <p>子どもの態度、表情、行動から、子どもの気持ちが安定していないことを示している。しかし、評定1ほど明確な様子は見られず、不快感が絶えず示されている分けでもない。</p>  |
| 3  | 中程度  | <p>子どもの態度は自然で、表情や態度に大きな変化がない。悲しそうなおぶりや喜びの表現、快適か快適でないかの様子もそれほど明確ではない。</p>  |
| 4  | 高い   | <p>子どもは明らかに評定5に書かれている満足の様子を示している。しかし、持続的に絶えずその様子が見られる分けではない。</p>  |
| 5  | 特に高い | <p>観察中、子どもは楽しんでおり、実際満足している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは楽しそうで、機嫌がよく、笑い、笑顔で、歓喜の声を出している；</li> <li>・子どもは自主的で、表現豊で、元気だ。</li> <li>・子どもは自分自身に話しかけたり、何かをしゃべったり、鼻歌を歌いながら活動している；</li> <li>・子どもはリラックスしていて、ストレスや緊張した様子を見せない；</li> <li>・子どもは開放的で、環境に積極的に関わっている；</li> <li>・子どもは生き生きとして、はつらつとして、喜びにあふれている。</li> <li>・子どもは自信と確信にあふれた態度を見せている。</li> </ul> |

## 「夢中度」の評定

| 評定        | 例  |
|-----------|--|
| 1<br>特に低い | <p>子どもはほとんど何の活動もしていない；</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かに集中しているように見えない；ボーとしていて、寝起きのような状態；</li> <li>・放心したような状態で、活気がない；</li> <li>・無目的な活動、行動が見られ、生産的な動きをしていない；</li> <li>・探求心や関心が見られない；</li> <li>・何かをしようとしないうし、心も動いてないように見える。</li> </ul>  |
| 2<br>低い   | <p>子どもはある程度活動しているが、たびたび中断してしまう；</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少しは集中しているが、活動中に他の方を見たり、ぶらぶらしたり、ボーとしたりしている；</li> <li>・簡単に気が散ってしまう；</li> <li>・行動が単純な結果しか生まない。</li> </ul>   |
| 3<br>中程度  | <p>子どもはいつも忙しそうにしているが、何かに集中しているようには見えない；</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まり切った行動が多く、活動に表面的な注意しかはらっていない；</li> <li>・活動に没頭しておらず、活動が短時間で終わってしまう；</li> <li>・活動へのモチベーションがそれほど高くなく、熱中することもなく、挑戦的でもない；</li> <li>・子どもは、その活動で得られる十分な経験を得られていない；</li> <li>・子どもは自分の能力を十分に発揮していない；</li> <li>・活動が子どもたちの想像力を刺激していない。</li> </ul>   |
| 4<br>高い   | <p>明らかに子どもは活動に参加している様子が見える。しかし、常に精一杯取り組んでいるとは見えない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは絶えず活動に取り組んでいる；</li> <li>・活動中、真剣に取り組んでいるが、時たま、注意がそれることがある；</li> <li>・子どもは挑戦的に活動に取り組んでいて、活動へのモチベーションもある程度高い；</li> <li>・子どもの能力や想像力がある程度活動に反映している。</li> </ul>   |
| 5<br>特に高い | <p>観察中、子どもは絶えず活動に取り組んでおり、完全に没頭している；</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもは、活動中、中断することなく、完全に焦点を定めて、集中している；</li> <li>・子どもは活動に対して高いモチベーションを持っており、活動に魅力を感じていて、辛抱強く取り組んでいる；</li> <li>・何か強いじゃまが入っても、気を散らすことがない；</li> <li>・子どもは注意深く、細部にも注意を払い、几帳面に活動している；</li> <li>・精神的な活動も、実際の経験も高いレベルである；</li> <li>・子どもは絶えず全力を尽くしている。想像力も精神的な能力も最大限に働かせている；</li> <li>・子どもは活動に夢中になることを楽しんでいる。</li> </ul> |

## (4) Form A 記入例

## 第1段階

Form A

## 活動中の子どもの姿

| 子どもの名前: ことばりさ  | 安心度 | 夢中度 | 子どもの名前: たかはしゆうき  | 安心度 | 夢中度 |
|--|-----|-----|--|-----|-----|
| 7月14日  | 5   | 5   | 7月14日  | 3   | 2   |
| 記録者: 関口美佳  |     |     | 記録者: 関口美佳  |     |     |
| エピソードとその背景<br>午睡後、おやつも食べた後の時間帯。<br>さやちゃんとうさちゃんを誘って、積み木と板を使ってタワーづくりをする。リサちゃんやさやちゃんは積み木を板の四隅に置き、その上にまた板を置いてタワーを高くしていく。ゆさちゃんは、その板の所にミニカーやカラードロップを置いて、かざりのつもりだが、リサちゃんが置くのをやめさせた。高く積んだためにじゃまだと思ったようだ。さやちゃんも積極的なので、リサちゃんやさやちゃんは言葉を交わさなくてもどんどん積んでいく。ゆさちゃんは、高く積むことには参加せず、脇に積み木を積んでタワーの幅を広げようとしている。<br>1段積んだところで、大きな板がなくなったので、大きい板の1/4の板を使って、さらに6段積んで、タワーが完成した。 |     |     | エピソードとその背景<br>なつみちゃんとまいちゃんと一緒にごっこ遊びをしている。四つ道いになって犬の役をしている様子。なつみちゃんとまいちゃんが何も言わないので、四つ道いから成道いになって、動けなくなってしまった。しばらくして、なつみちゃんが皿にカラフルな「えさ」を入れて持って来て、頭をなでながら食べるように促すと、食べるまねをするが、すぐ止めてしまう。なつみちゃんは「よしよし」をしたらまいちゃんと自分の衣類を替え始めた。<br>しばらくして、ゆうきくんが他の場所へ犬がびよんびよんするように動いたら、まいちゃんが連れ戻して穴の空いた大型積み木の中の「犬小屋」へ入れられてしまった。 |     |     |

担任が書くエピソードは、他の子の保育を行いながらの観察がベースになりますから、時には見えないときもあって、なぜそのような行動に変わったのかが捉えきれない場合もあります。しかし、無理な推測をせずに、見たままを記録するようにしましょう。

「安心度」と「夢中度」の評定は、観察した姿から行うのが良いでしょう。エピソードとして書いたことだけをもとにすると、活動中の子どもの実態を正確に反映しなくなる可能性もあります。特に、エピソードとして取り上げた場面の中でも、時間の経過とともに「夢中度」が変化し、一体いつの時点での評定を行えばいいのか判断に迷うかもしれません。そのようなときには、観察中のその子の夢中度がどのように変わったのかを思い出しつつ、その活動中のその子の心の動きを観察者がどのように感じたのか、どのような印象だったのかで判断しましょう。瞬間的に何かの弾みで夢中度が高まっても、高まった要因が消えたとともに、夢中度も下がってしまうことがあります。その活動時間中、結局その子は満足できる活動が行えたのか、瞬間的には高かったが、それ以外の時間はあいまいな行動に終始し、結局不満足なままだったのかを評定しましょう。後の話し合いでは、評定自体を数字として扱うのではなく、その評定になった要因について話し合いますから、無理に高い評定をつけようとする必要はありません。この評価表は、子どもの「安心度」「夢中度」の評定が低いことで、保育者の保育の質の「低さ」を責めようとするものではありません。素直に感じたままを評定し、園の同僚の協力を得て、よりよい保育をめざそうとするものなのです。

### 3. 第2段階

#### (1) 観察の分析

Form Aで行ったエピソード記録と「安心度」「夢中度」の評定をもとに、保育の現状を分析するのが、第2段階です。担任と担任外の保育者で観察に入られた方、そしてその他日常の園の保育を見知っている保育者が話し合いに参加されると、多面的な視点からの議論になるでしょう。

議論に入る前に、集められたエピソード5-6のうち、3つのエピソードを選びます。すべてを取り上げたいのですが、限られた会議の時間を考えると、じっくりと話し合うためには3つが適当と考えられます。選択に当たっては、まず担任のものは必ず1つは取り上げましょう。次に、夢中度などの評定が多様になるようにしましょう。夢中度などの評定が似通ったものばかりの場合は、取り上げているエピソードの活動場面が多様になるようにしましょう。

議論をするに当たって、Form Bを使用します。Form Bは、三つの要素から成り立っています。一つは「保育活動そのもの」、二つめは「子どもとその背景」、そして三つめは「特別な事情」です。中心となるのは、「保育活動そのもの」の部分です。エピソードについて以下に述べる5つの視点から「なぜ安心度と夢中度が高かったのか/低かったのか」を話し合い、1枚のForm Bを完成させます。

話し合いの参加者全員に用紙は配っておき、視点を確認できるようにしておき、話し合いの結果を誰かがまとめて1枚の用紙に清書するようになれば良いでしょう。

3つのエピソードを取り上げますが、別々の用紙を使用するのではなく、3つのエピソードについての話し合いの結果を1枚に書き込みます。したがって、同じ視点のところでは安心度、夢中度が高いことについての話し合いの結果と、低いことについての結果が記録されるかもしれませんが、相反する結果がでること自体も保育をふり返る上で重要なことなのです。

「保育活動そのもの」は5つの視点から構成されています。「豊かな環境」「集団の雰囲気」「自発性の発揮」「保育活動の運営」「大人の関わり方」です。

#### ① 豊かな環境

子どもたちが活動している環境はどれくらい豊かですか？

より細かく見ていきましょう

- ・ 基本環境:保育室やその他のスペースの多様な設定と構成
- ・ 子どもが使うことができる、遊び道具や保育教材
- ・ 活動内容

子どもたちは魅力的で、多様な環境において、楽しみ、最もよく発達します。子どもたちが活動に夢中になって取り組むことができる機会を多く提供することが重要なのです。これは、絶えず新たな保育教材や活動を提供し続けることによって可能になるのです。

#### ② 集団の雰囲気

子どもたちは保育環境や集団の中で、どれくらいひびひしていますか？

より細かく見ていきましょう

- ・ 保育室の環境の構成や、全体的な印象
- ・ 子ども同士の仲間作りへの努力

子どもが保育施設にいることが好きだったり、そこが快適だと感じたりするかどうかは、多分に雰囲気に関係しています。雰囲気というものは多様なものですが、たいてい保育環境や集団を特徴づける基本的な雰囲気があります。もしすべてがうまくいっていれば、観察者は活発な人の関わり合い、たとえば、子ども同士や、子どもと保育者のふれあいや、笑い声、自主的な活動などからそれを感じ取ることができるでしょう。

環境の構成は大いに良い雰囲気を作り出すことに関わっています。保育室はどれくらい温かい雰囲気になるように飾られているでしょうか？ どのような色が保育室の印象を作っているでしょうか？ 保育室の物の配置や構成がどのような印象を与えていますか？ 保育室が、乱雑だったり、几帳面に整理しすぎてあったりしませんか？

当然、雰囲気は、子ども同士や子どもと保育者との人間関係から生まれてくるものでもあります。したがって、友だちとの楽しい時間を作ったり、子ども同士の仲間づくりや、周りの大人との積極的な人間関係を作ったりすることをあなたが援助することによって、子どもは集団への帰属意識を強めていくことができるのです。

### ③ 自発性の発揮

子どもたちにはどれくらいの自由がありますか？

より細かく見ていきましょう

- ・ 基本:保育者が子どもに何をして遊び、どれくらいの時間、どれくらいの頻度で、誰と遊ぶのかを決めさせる機会がありますか？
- ・ どの程度子どもたちはその日に何をするか、どのような順序でするかなど、することを決めることができますか？
- ・ 子どもたちは、その程度その日の活動の展開に責任を負っていますか？
- ・ 様々なルールが、どの程度子どもたちに説明されたり、子どもたちと相談して決められたりしていますか？

子どもたちがやりたいと思うことをすることが、大きな満足を生み出しますし、高い夢中度の条件です。子どもたちは自分の興味や能力に応じた活動に取り組もうとします。それを可能にするには、子どもたちが自発性と活動への強い意欲を発揮できるようになっている必要があります。保育者は、子どもたちが、そのようにできるようにどの程度していますか？ また、子どもたちは自分が魅力的だと感じるおもちゃを選ぶことができますか？ もちろん、これらのことはある一定の範囲内でのことであり、はっきりしたルールと子どもたちの了解がなければなりません。

また、「自発性発揮の余地」とは、保育者が積極的に子どもたちを、その日の活動に参加させるようにし、子どもたちができる範囲で自分の活動に責任を負うようにすることも意味しています。

### ④ 保育活動の運営



その日の活動が効果的に行われるように組まれていて、すべての子どもの必要に応じるようになっていきますか？

より細かく見ていきましょう

- ・ その日の予定が、子どもたちにはっきりと示されているとともに、同時に必要に応じて柔軟に変更できるようになっている。
- ・ 保育者間の役割分担が、きちんと相談されていて、それぞれの保育者の能力が最大限発揮されるようになっている。
- ・ グループ分けの際には、できるだけ同じメンバーになるようにして、子どもが安定して活動に取り組めるようになっている。

保育施設での1日は、子どもにとっては長くて、見通しが持てないものかもしれません。食べること、寝ること、トイレに行くこと、遊ぶことなど。これらはなぜ、いつ行われますか？ はっきりした順序や見通しが子どもたちに分かるように何かで示されていますか？ その日の様々な活動内容や、時間、順序などが子どもの年齢や個人差に応じたものになっていますか？

保育者が複数いるならば、上手な役割分担によって、ある活動から次の活動への移行が速やかに行われ、無駄な時間が減り、保育者も安心できます。

また、ある程度固定化した集団編成は、子どもたちに分かりやすく、安定した気持ちを高めます。

## ⑤ 大人の関わり方

保育者は、子どもと関わる中で、どれくらい子どものことを考えていますか？

より細かく見ていきましょう

- ・ 保育者はどのようにして、子どもの活動を高めようとしていますか？  
意味:保育者は子どもが何に興味を持っているかを感じ取って、活動に没頭するようにどのような援助をしていますか？
- ・ 保育者は子どもの感性をどれくらい敏感に感じ取ろうとしていますか？  
意味:保育者は、子どもの感情を読み取って、見ていてほしい、受け入れてほしい、安心してほしい、気持ちを理解してほしいなどの基本的な要求にどれほど適切に応じていますか？
- ・ 保育者は、子どもたちにどの程度の自律を認めていますか？  
意味:保育者は、子どもたちに、自己主張したり、自分の思い通りに何かをしたり、何かを試してみたり、何かが終わったと決めたり、子ども同士で納得して、問題を解決したりする場を、どの程度与えていますか？

優秀な保育者は子どもの中に何が起きているのかに敏感です。子どもたちの気持ちになって、子どもたちが何がしたいかを知ることができます。これは、保育者が子どもに温かい愛情を注いでいることを意味しています。

このような保育者は、子どもたちを励まし、一人の人間としてふるまう場を与えます。また、子どもたち

の興味に応じていて、発達のレベルにもあった適切な関わり方をすることができるのです。

「子どもとその背景」は子どもの側にある、さまざまな事情がその子の活動に影響を及ぼしたであろう要因を記入します。例として、その子が、その保育施設に入って、まだ1週間も立っていないとか、弟/妹が生まれたばかりで、家族の人の関心が赤ちゃんへ向いているとか、家族のだれかが病気などがあげられます。

「特別な事情」は、子どもの側ではなく、園や園を取り巻く状況で子どもたちの活動に影響を及ぼしたであろう要因を記入します。例として、保育者が、そのクラスを担当するのが初めての日だったとか、観察を行った時間帯に、雷を伴う大雨が降っていたとか、園の側で工事が行われていて、機械の音がうるさかったなどがあげられます。

## (2) 話し合いの実際

前述のように、話し合いに参加するのは、エピソードを記録し、「安心度」と「夢中度」を評定した担任と担任外の保育者、それに同じ年齢層の子どもを担当している保育者、そして、主任や園長など日常の保育の様子や子どもたちのことをよく知っている方が良いでしょう。繰り返しますが、話し合いは「悪いところ」を探し出して直そうとするのではなく、「良いところ」を増やしていこうという姿勢で行うことが肝心です。したがって、特定の人が話し合いの方向を決めつけてしまうのではなく、全員が発言し、より良い保育をめざして意見やアイデアを出すことが重要です。

対象クラスの担任に敬意を表しつつ、「安心度」と「夢中度」が高かった理由、どうすれば、より「安心度」と「夢中度」が高くなるかをエピソードに基づいて話し合います。話し合いの時には、記入されたForm Aをコピーして、話し合いの参加者全員が資料として持っておく方が良いでしょう。

上記の例を参考にすれば、りさちゃんは「安心度」も「夢中度」も「5」の評定でした。エピソードからりさちゃんが熱心に活動していたことは読み取れますが、もう少し周りの様子なども知りたいところです。そこで、観察した保育者の補足的な説明が話し合いの中で出てきても良いかもしれません。保育室のどの場所で、周りの子どもたちの様子は、できた作品はどうなったかなどが評定が高くなった理由を説明してくれるかも知れません。例えば、「積み木を積んだ場所が保育室の隅の遊具棚の上で、すぐ側に板と積み木があり、りさちゃんを含めて3名以外の子はこの活動に関与せず、遊具棚の中の遊具を取りに来る子どももいたが、すぐに立ち去ってしまい、狭い場所での活動だったが、周りは広々として誰もいなかった」という説明があったり、「できた作品は、崩さずに、そのままになっている」とか、「クラスのルールとして、誰かが作ったと思われる作品は、どんなものでも、作った人の了解なしに崩してはいけない約束になっている」などが補足情報として出されるかも知れません。それらを聞いた後に、「保育活動そのもの」についての5つの観点から、気がついたことを出し合しましょう。

「遊びが誰にもじゃまされなかった」「すぐ側に、遊具があって、遊びやすかった」「午睡後の時間で、特に遊びを特定せず、ゆったりと過ごす時間だったので、思いついた遊びにすぐに取り組めたのかも知れない」などの意見が出るかも知れません。また、「普段のこの3人の人間関係は、どうですか?」などという質問が出て、「この3人は普段から仲良しで、良く一緒に遊んでいます。特に上下関係があるわけではないけど、ゆきちゃんと一緒にいるけどマイペースなところがありますね。」などという、さらに詳しい情報が提供されたりするかも知れません。

そうすると、りさちゃんが、「安心度」「夢中度」とともに「5」だったのは、普段からの仲良しとともに、遊

び場をゆったりと使えて、遊具も側にあり、他からの干渉もなかったので、主体性が発揮しやすい状況にあったのではないかという結論に達するかも知れません。

その結論をForm Bに書きます。リサちゃんたちはゆったり遊べ、その理由も上記のようだったわけですから、「安心度と夢中度が高いと判断した視点」の「豊かな環境」の所には、「他の子にじゃまされない、ゆったりとした遊び空間と時間があった」と書かれることでしょう。また、「豊かな環境」の欄には「他の子にじゃまされなかったので、自分たちで自由にその場所と遊具を使うことができた。作品が勝手に壊されることがないというルールが守られているので、自信を持って作っていた。」という結論が書かれるでしょう。

さて、「安心度」が「3」で「夢中度」が「2」だったゆうきくんの場合はどうでしょうか、繰り返しますが、「どこが悪かった」のではなく、「より良く」するにはどうすればいいのかを考えるようにしましょう。まず、「普段からゆうきくんはこんな様子ですか?」という質問が出るかも知れません。担任の方から「午前中の遊びの時間は、特になつみちゃんやまいちちゃんと一緒に遊んでいることは少ないのですが、午後の午睡の後には、特定の子に限らないのですが、女の子と一緒に遊んでいることが多いように思います。」とか、「実は、先月ゆうきくんに弟が生まれました。ひよつとしたら、それが関係しているかも知れません。」などという情報が出てくるかも知れません。話し合いのなかで、「ゆうきくんは、午睡の後で、まだ完全に目が覚めきっていないのではないか」、「女の子の言うとおりに活動しているのだから、犬の役になりきっていて、なつみちゃんとまいちちゃんから指示が来ないので、何もしてないように見えるけど実際の『なりきり度』は高く、夢中度も高いのではないか」などという意見が出てくるかも知れません。それに対して観察者から「確かに犬になりきっているようなのですが、なつみちゃんとまいちちゃんから指示がないと、犬の姿勢もやめてしまったり寝てしまったり、また何かをなつみちゃんやまいちちゃんに催促したりということもなく、ただ一回、自分で他の所へ行こうとはしましたが、それ以外は活動的には見えませんでした。」というような発言があるかも知れません。そんな話し合いから「弟が生まれたので、少し我慢しているところがあって、誰かに甘えたい気持ちがあるのかも知れませんね。」「少し、保育者の方で今まで以上に見守って声をかけるようにしてはどうか」などという結論が出るかも知れません。

したがって、同じForm Bの用紙に「個々の子どもの状態や欲求をもう少し丁寧に見ていった方がいい。」という文章が書き込まれます。このとき、重要なのは、個々のエピソードから出てきた結論ですが、常にクラス全体の保育を念頭に置いて結論を出すことです。上記の結論は「ゆうきくん」のエピソードから引き出された結論ですが、ゆうきくんだけを丁寧に見ていこうというのではなく、ゆうきくんと同じような状態の子はいないかという観点から結論を書き、クラス全体の保育の向上のための視点とすることが望まれます。

そして、このForm Bへの記入が完了した段階で、第1回目の話し合いは終了です。清書されたForm Bをコピーして全員に配ります。

3つのエピソードを取り上げますが、90分から2時間までに終わるようにしたいものです。

## 第2段階

## 観察の分析

Form B

月 日

| 安心度と夢中度の判定が高いと判断した視点   |         | 安心度と夢中度がより高くなるための視点            |  |
|--|---------|--------------------------------|--|
| 他の子にじゃまされない、ゆったりとした遊び空間と時間があつた。  | 豊かな環境   |                                |  |
|  | 集団の雰囲気  |                                |  |
| 他の子にじゃまされなかったので、自分たちで自由にその場所と遊具を使うことができた。作品が勝手に壊されることがないというルールが守られているので、自信を持って作っていた。 | 自発性の発揮  |                                |  |
|  | 保育活動の運営 |                                |  |
|  | 大人の関わり方 | 個々の子どもの状態や欲求をもう少し丁寧に見ていった方がいい。 |  |
| 子どもとその背景<br>ゆうさくんは弟が生まれたばかりで、少し甘えたいのかも知れない   |         | 特別な事情                          |  |

\*すべてを埋める必要はありません。複数の子どもの分析をもとにポイントをしまりましょう。また、個々の子どもの分析から得られた視点を、クラス全体の保育の質を高める視点へと広げましょう。